

第5章 道路、公園等の状況

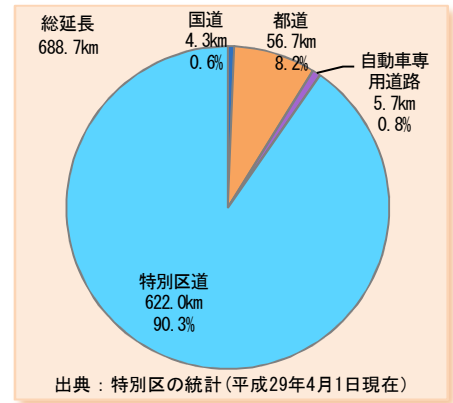
1 道路の状況

(1) 公道延長、面積の状況

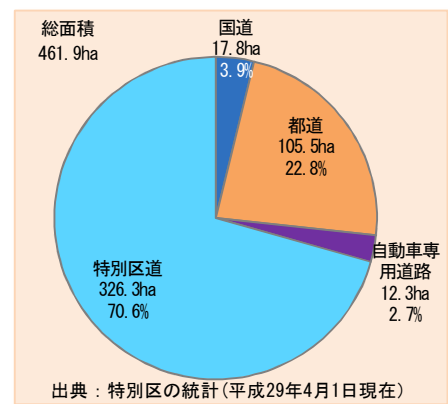
◆ 延長、面積ともに特別区道が最多

- 国道や都道、特別区道等の公道の総延長は688.7km、総面積は461.9haとなっています。
- 公道の内訳では、特別区道が622.0km(90.3%)を占めて最も多くなっており、面積についても、特別区道が326.3ha(70.6%)を占めて最も多く、公道の大部分を構成しています。
- 特別区道以外では、都道が多く、延長で8.2%、面積で22.8%を占め、公道の重要な構成要素となっています。

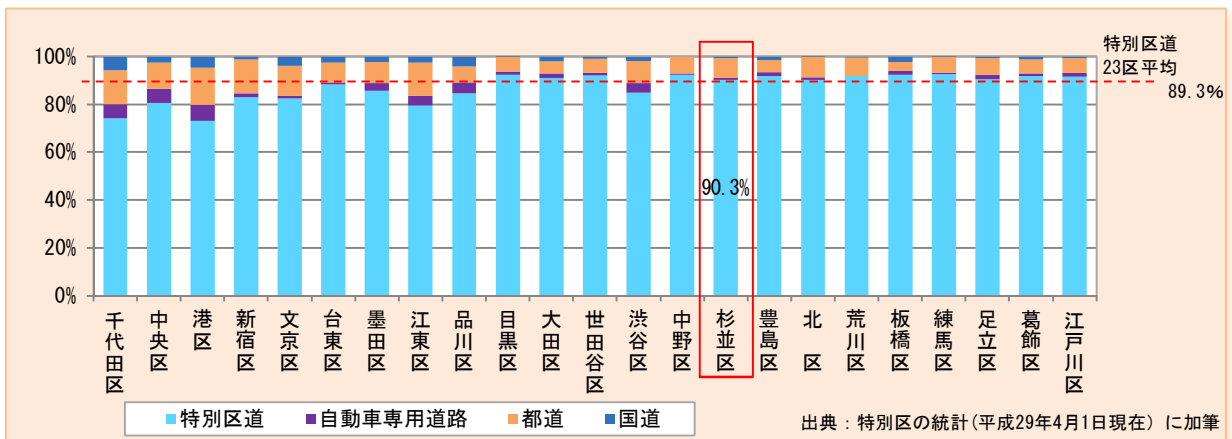
【公道延長の割合】



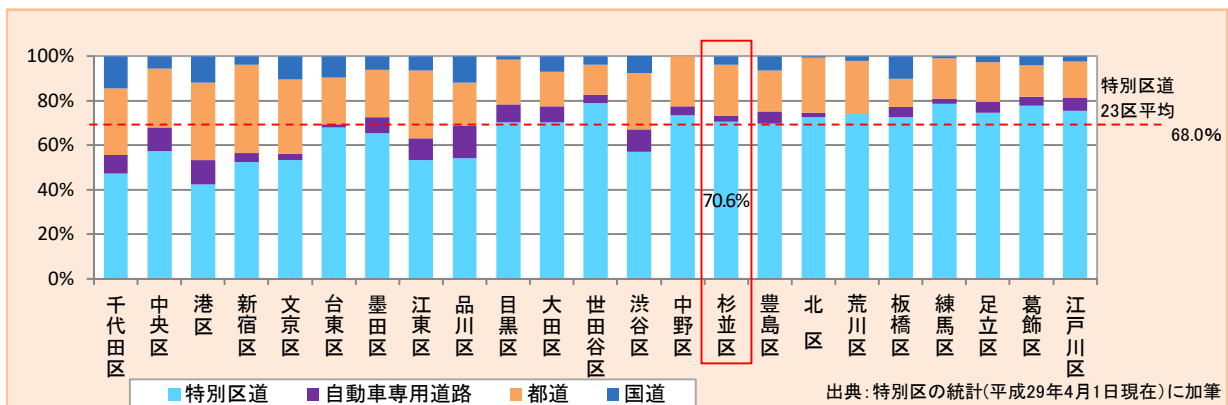
【公道面積の割合】



【公道延長割合の23区比較(平成29年4月1日)】



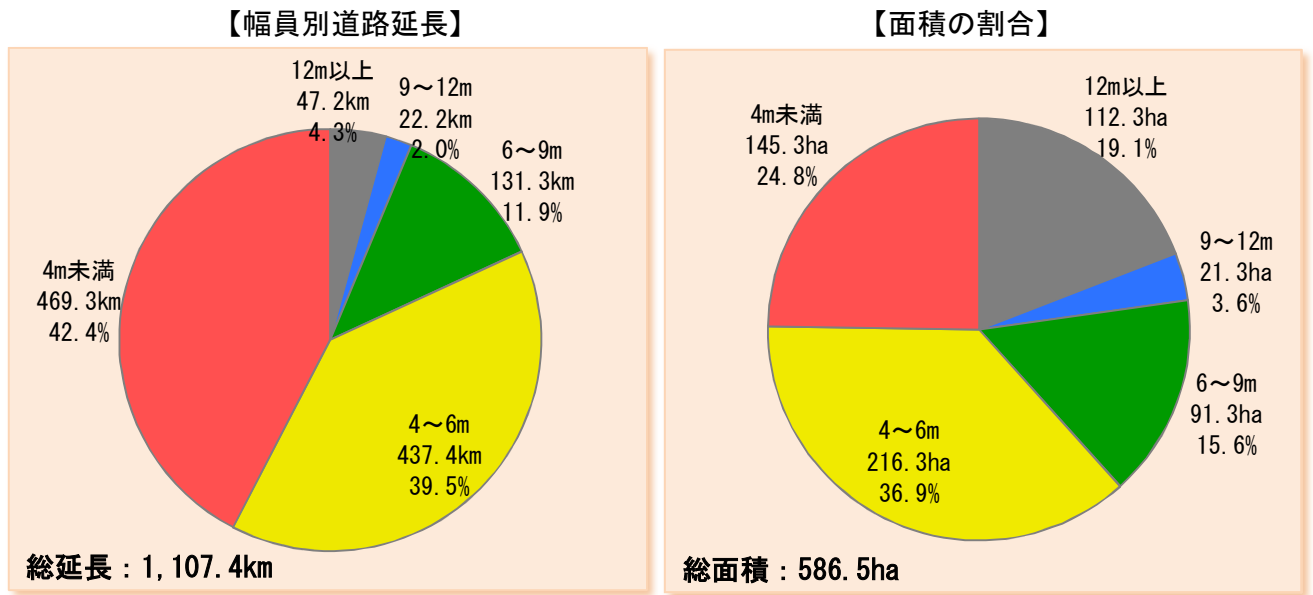
【公道面積割合の23区比較(平成29年4月1日)】



(2) 幅員別道路状況

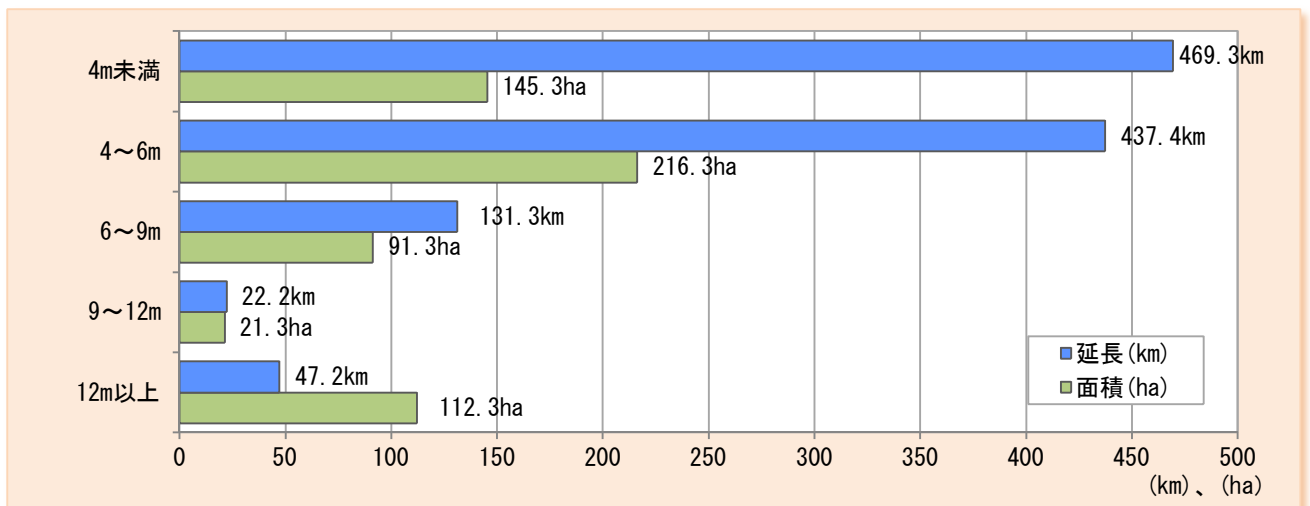
◆ 幅員 4 m未満の道路延長が最多

- 公道と私道を合わせた道路延長で見ると幅員 4 m未満が最も多くなっており、全体の 42.4% (469.3km) となっています。6 m未満の道路と合わせると 8 割以上になります。面積についても、幅員 4 m以上 6 m未満の道路が 36.9% (216.3ha)、幅員 4 m未満が 24.8% (145.3ha) で、他の道路幅員と比べて割合が多くなっています。



出典：公道-特別区の統計(平成 29 年 4 月 1 日現在)
私道-土地利用現況調査(平成 29 年)

【幅員別道路延長と面積】



出典：公道-特別区の統計(平成 29 年 4 月 1 日現在)
私道-P43 の示した道路の延長と幅員から面積を求めた(土地利用現況調査(平成 29 年))

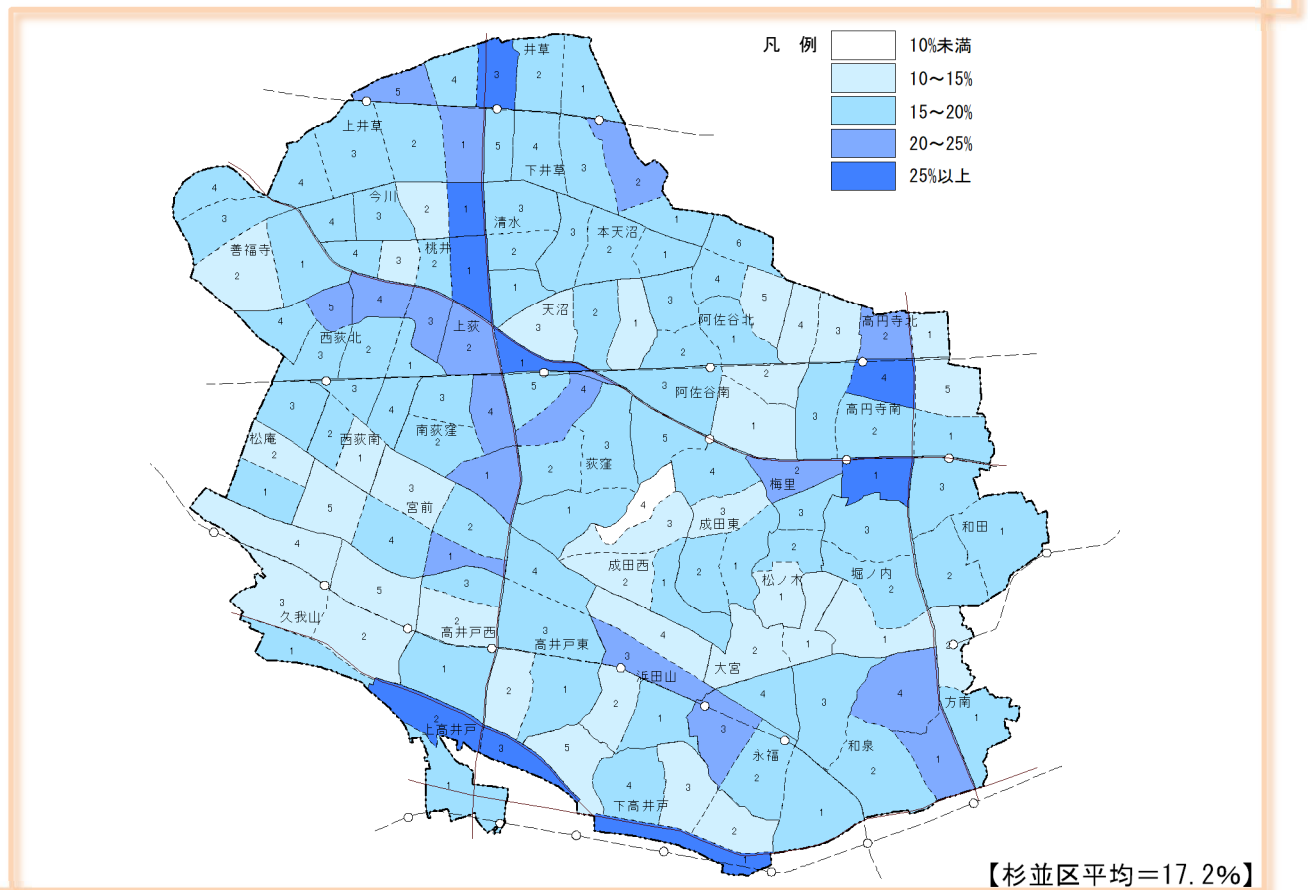
(3) 道路率の状況

◆ 環状7号線や環状8号線、青梅街道沿いに道路率の高い町丁目が分布

- 道路率とは、道路が区域の面積に占める道路の割合のことをいいます。
- 環状7号線や環状8号線、青梅街道沿いなどの幹線道路に面する町丁目の多くが道路率が20%以上となっています。
- 道路率の低い高円寺北や阿佐谷南、久我山などでは、4m未満の道路が多く分布しているなど共通点があります。

※和田堀公園、善福寺川緑地、善福寺公園等大きな面積の公園・緑地がある町丁目の道路率は、計算上、値が低くなります。

【道路率の状況図(町丁目別)】



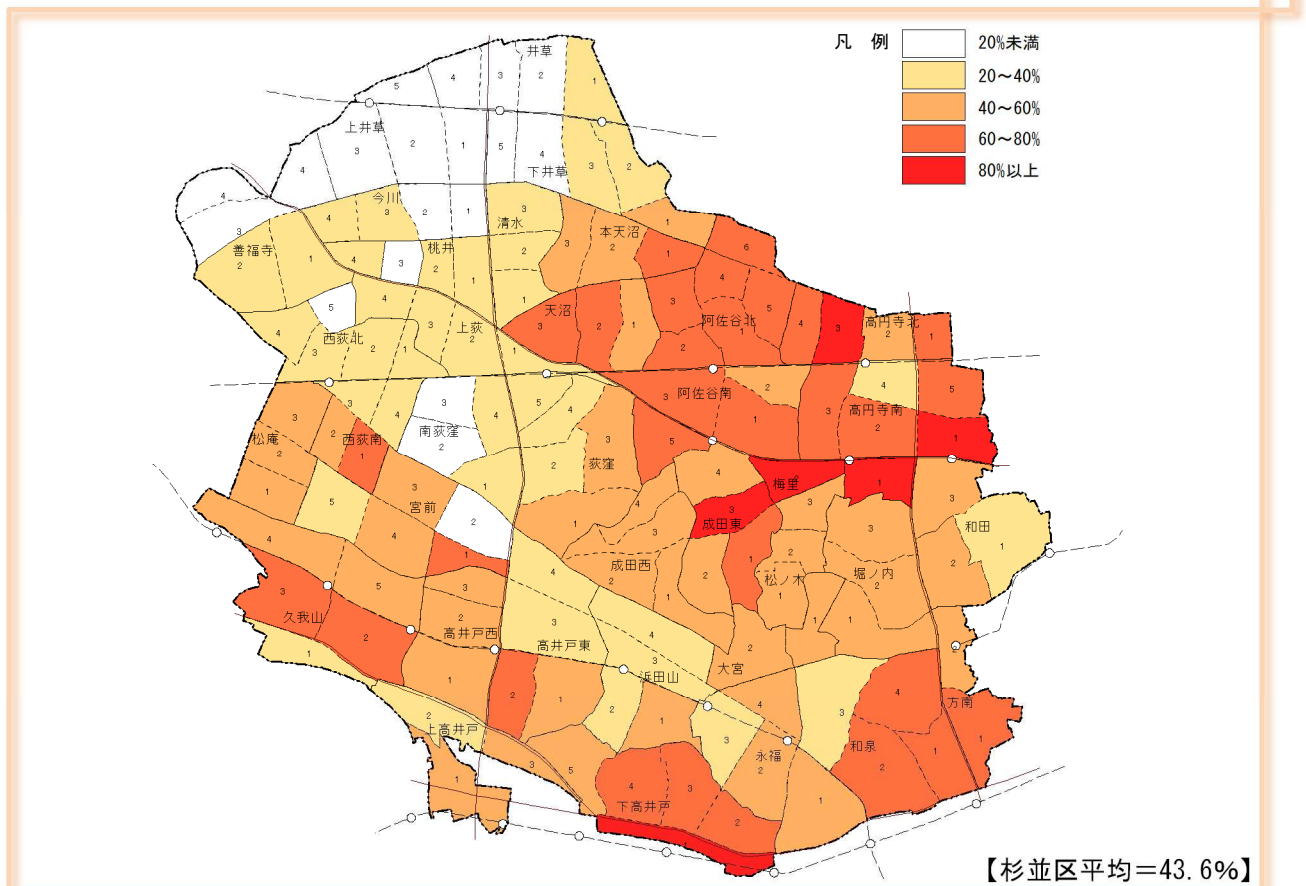
道路率 = (道路面積合計) / (町丁目面積) × 100

(4) 細街路率の状況

◆ 区東部の鉄道駅周辺に細街路率の高い町丁目が分布

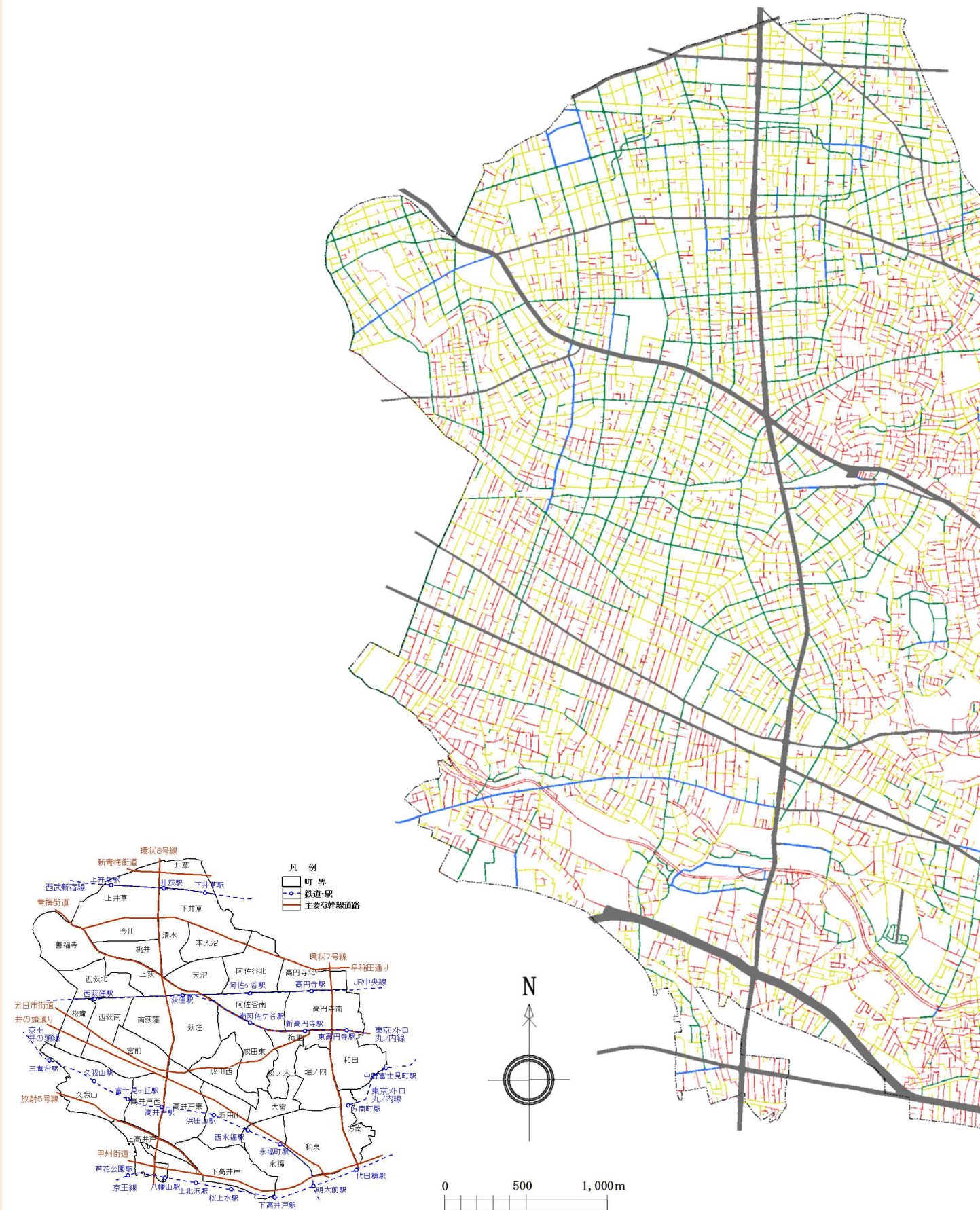
- 細街路とは、現況幅員が4m未満の道路のことをいい、細街路率とは、細街路が全道路延長に占める割合のことをいいます。この率が高い場合には、交通や防災面で課題があります。
- 一般的に大規模敷地が多い、または、道路自体が少ない町丁目では、細街路率は低くなります。
- 細街路率が低い(40%未満)町丁目は、区の北西部及び京王井の頭線永福町駅から高井戸駅の沿線に分布しています。

【細街路率の状況図(町丁目別)】



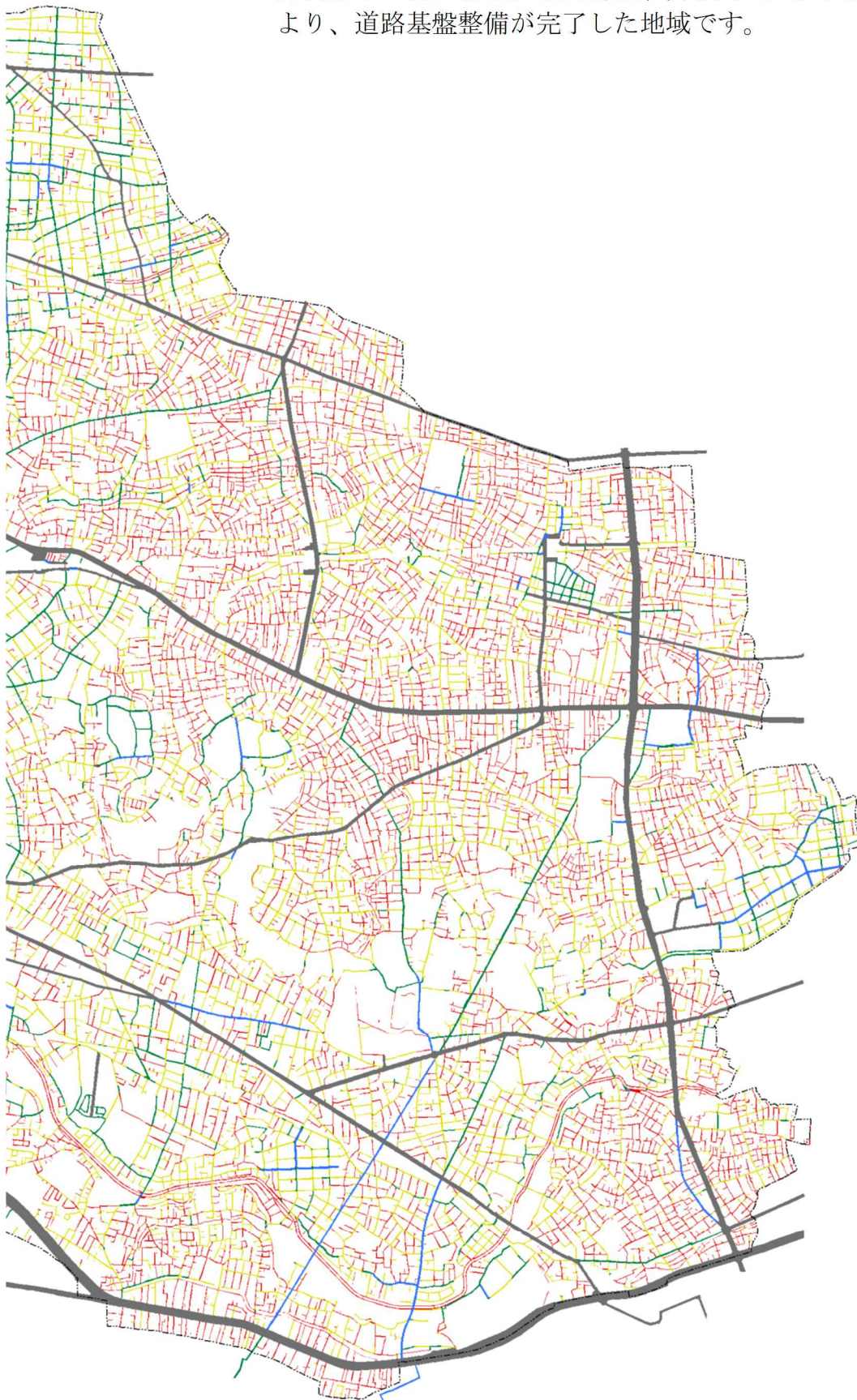
細街路率 = (現況幅員4m未満道路延長合計) / (道路延長合計) × 100

道路幅員現況図



《道路幅員の分布状況》

- この道路幅員現況図は、道路を幅員別に色分けしたものです。
- 細街路率が低い杉並区北西部は、井荻町土地区画整理事業(資料編 P85)により、道路基盤整備が完了した地域です。



凡	例
■	4m未満
■	4m以上6m未満
■	6m以上9m未満
■	9m以上12m未満
■	12m以上
□	区界

2 みどりの状況

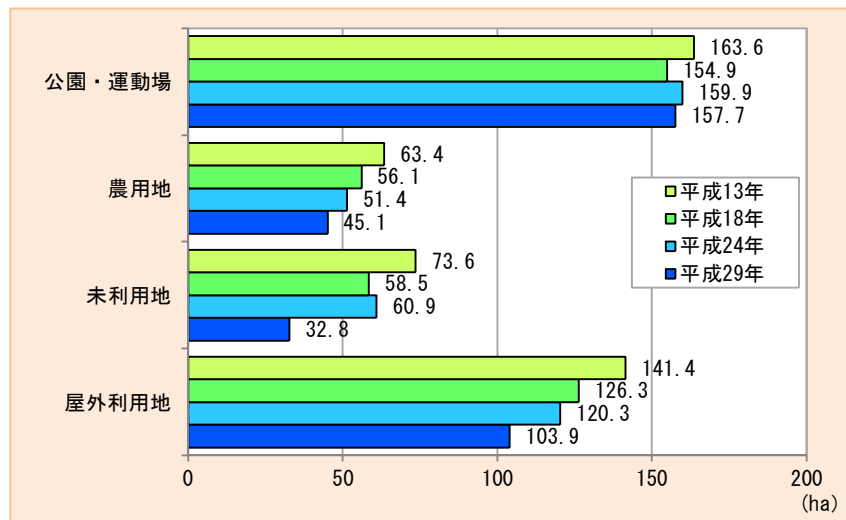
(1) 公園等の状況

1) 公園・農用地・未利用地等の状況

◆ みどり等の各指標の中で、特に未利用地や屋外利用地が減少

- みどり等の推移については、全般的に減少傾向です。公園・運動場等の面積は157.7haとなっており、前回調査から2.2ha減少しました。
- 農用地は年々減少する傾向にあり、平成13年からの16年間で約29%（18.3ha）減少しました。

【みどり等の推移】



2) 生産緑地地区の状況

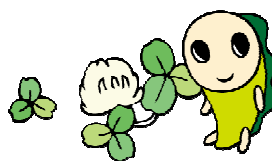
◆ 生産緑地地区は年々減少

- 平成30年現在、127件、32.90haが生産緑地地区に指定されています。

【生産緑地地区の件数と面積】

分類	平成30年	平成24年	平成18年	平成13年
件数	127	142	152	167
面積(ha)	32.90	36.65	39.87	43.64

※平成30年12月、平成24年11月、平成18年11月、平成13年9月の告示による



3) 都市公園等の状況

◆ 善福寺川、神田川沿いに大きな公園・緑地が多い

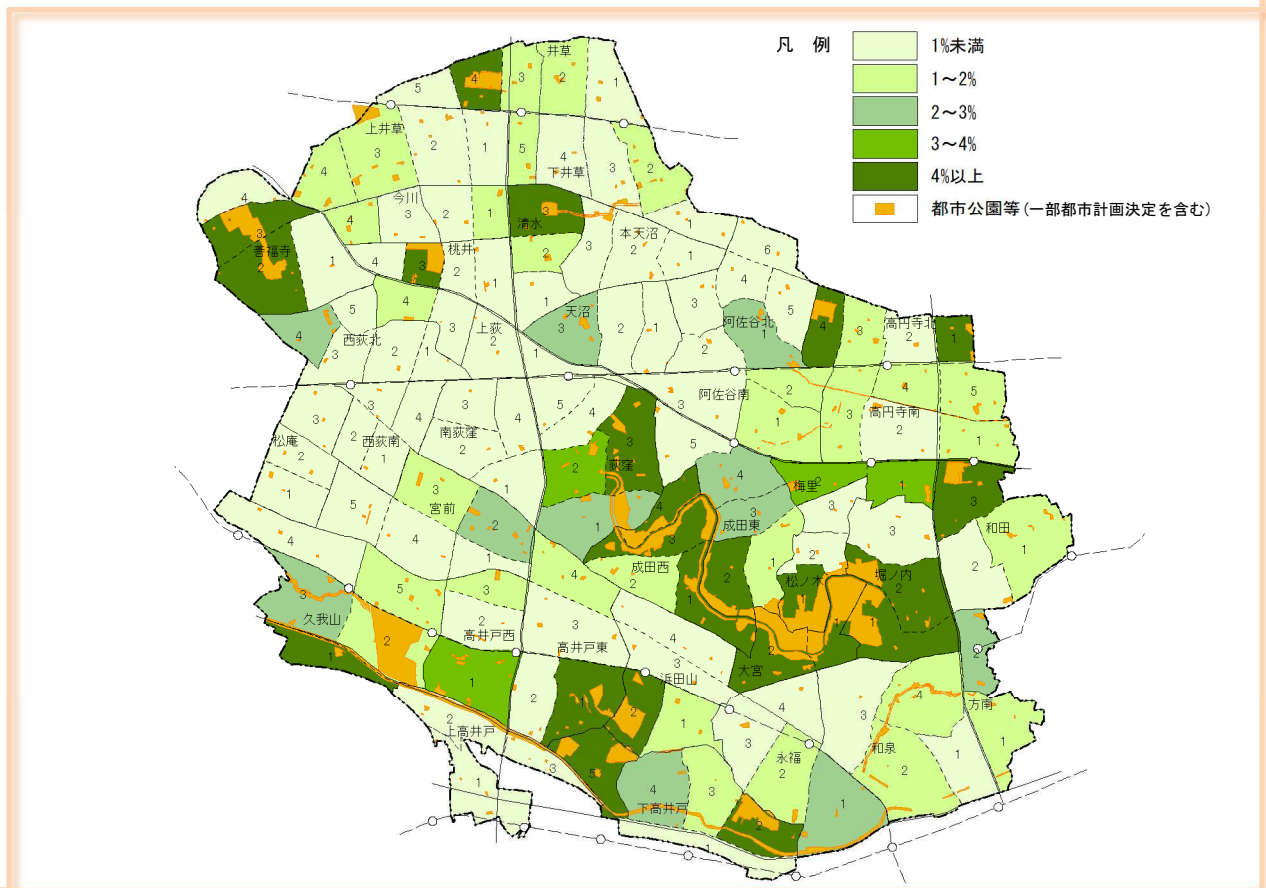
- 和田堀公園、善福寺川緑地、善福寺公園や柏の宮公園などの大規模な公園をはじめ、区内の都市公園等は347箇所、121.72haが整備されています。

【都市公園等の箇所数と面積】

分類		箇所数	面積(ha)
都立	都市公園	4	52.13
	都市公園	274	62.48
区立	児童遊園	50	2.54
	遊び場	19	4.57
合計		347	121.72

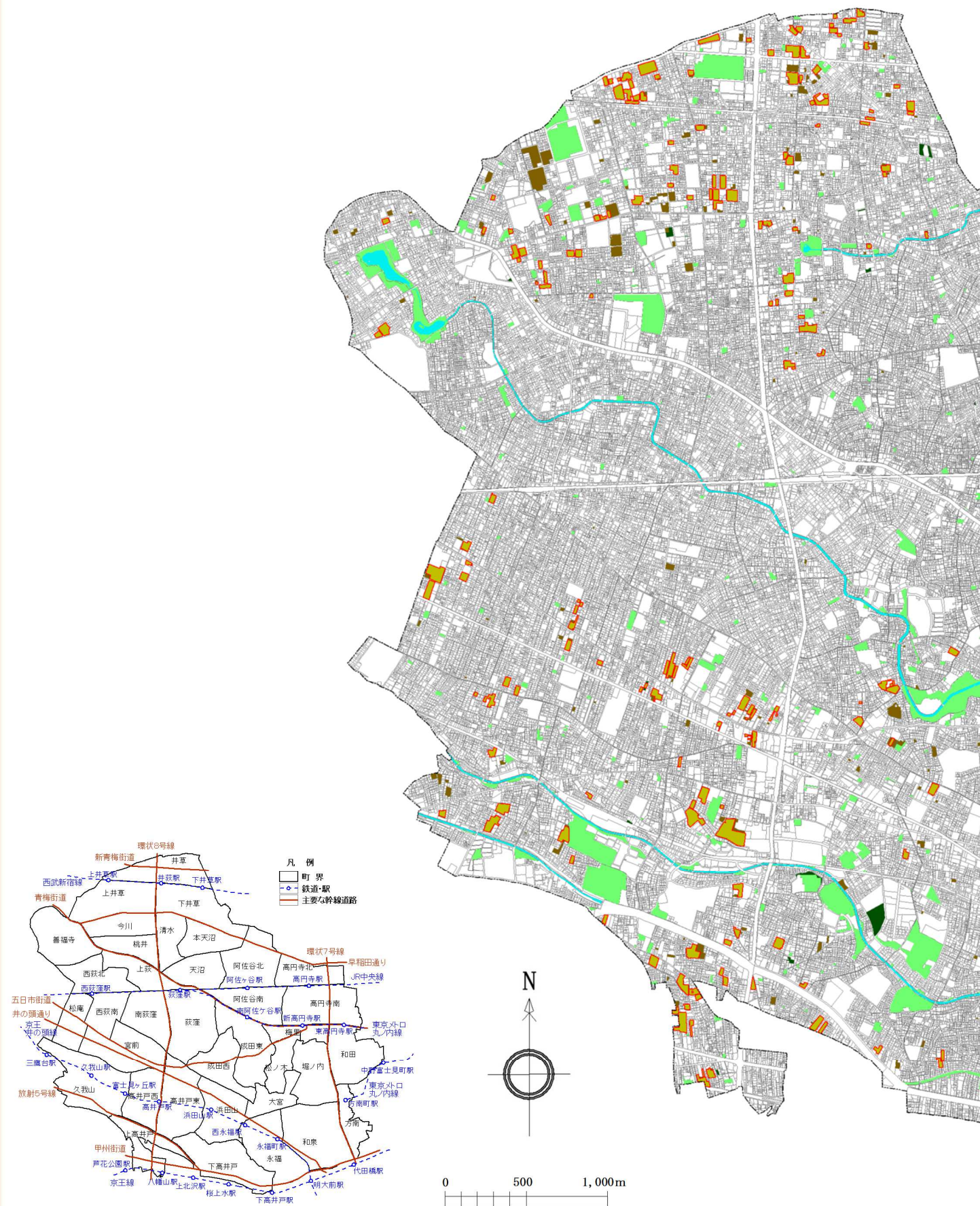
※平成30年4月1日現在、みどり公園課資料による

【公園等面積率図（町丁目別）】



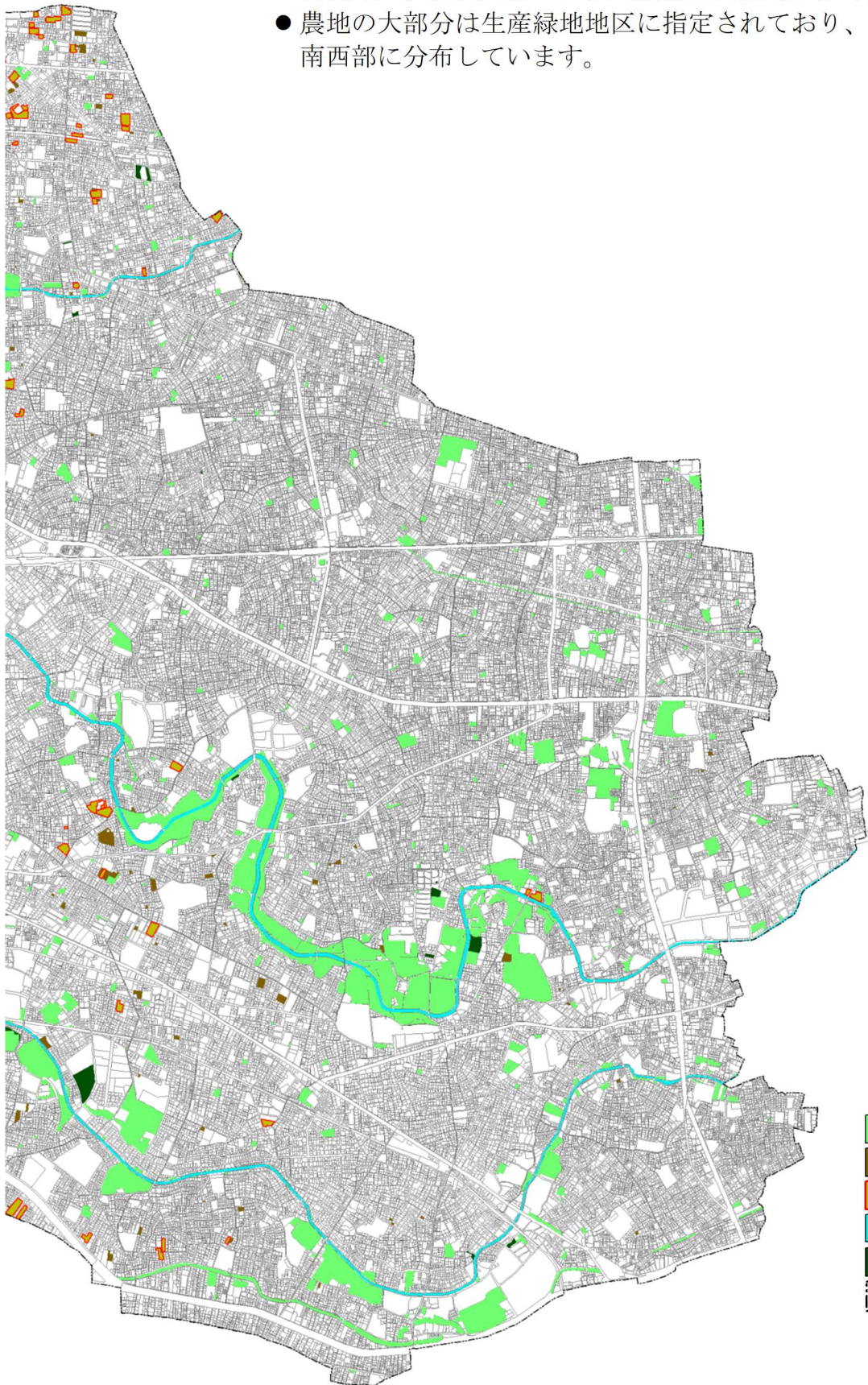
公園等面積率 = (公園等面積合計) / (町丁目面積) × 100 ※面積はともにGIS面積






公園等現況図



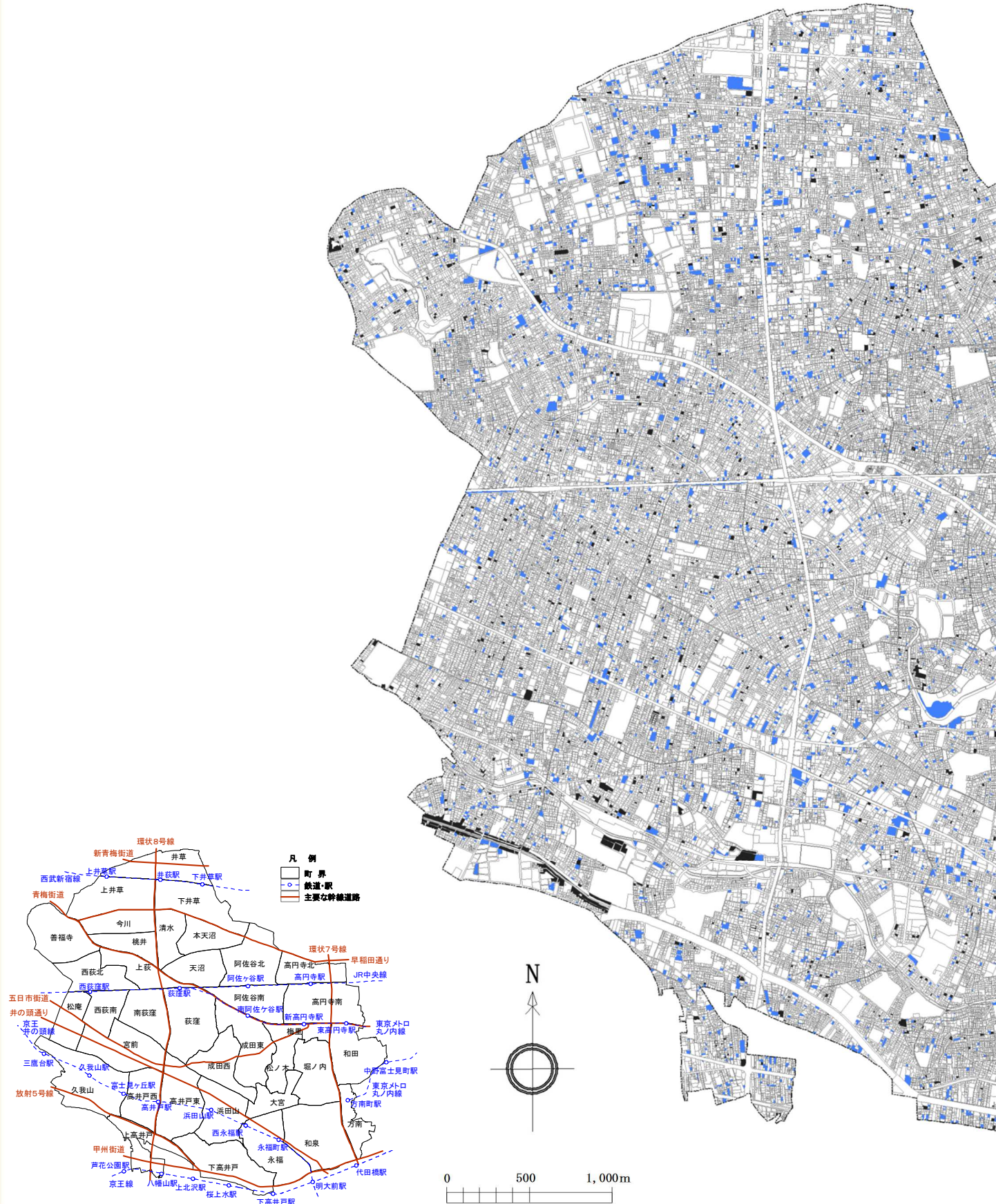
《公園等の分布状況》

- 公園、運動場等や農地は、区の北側と南側に多く分布しています。
- 善福寺川、神田川沿いに、大規模な公園等が多く分布しています。
- 農地の大部分は生産緑地地区に指定されており、その多くが区の北西部と南西部に分布しています。



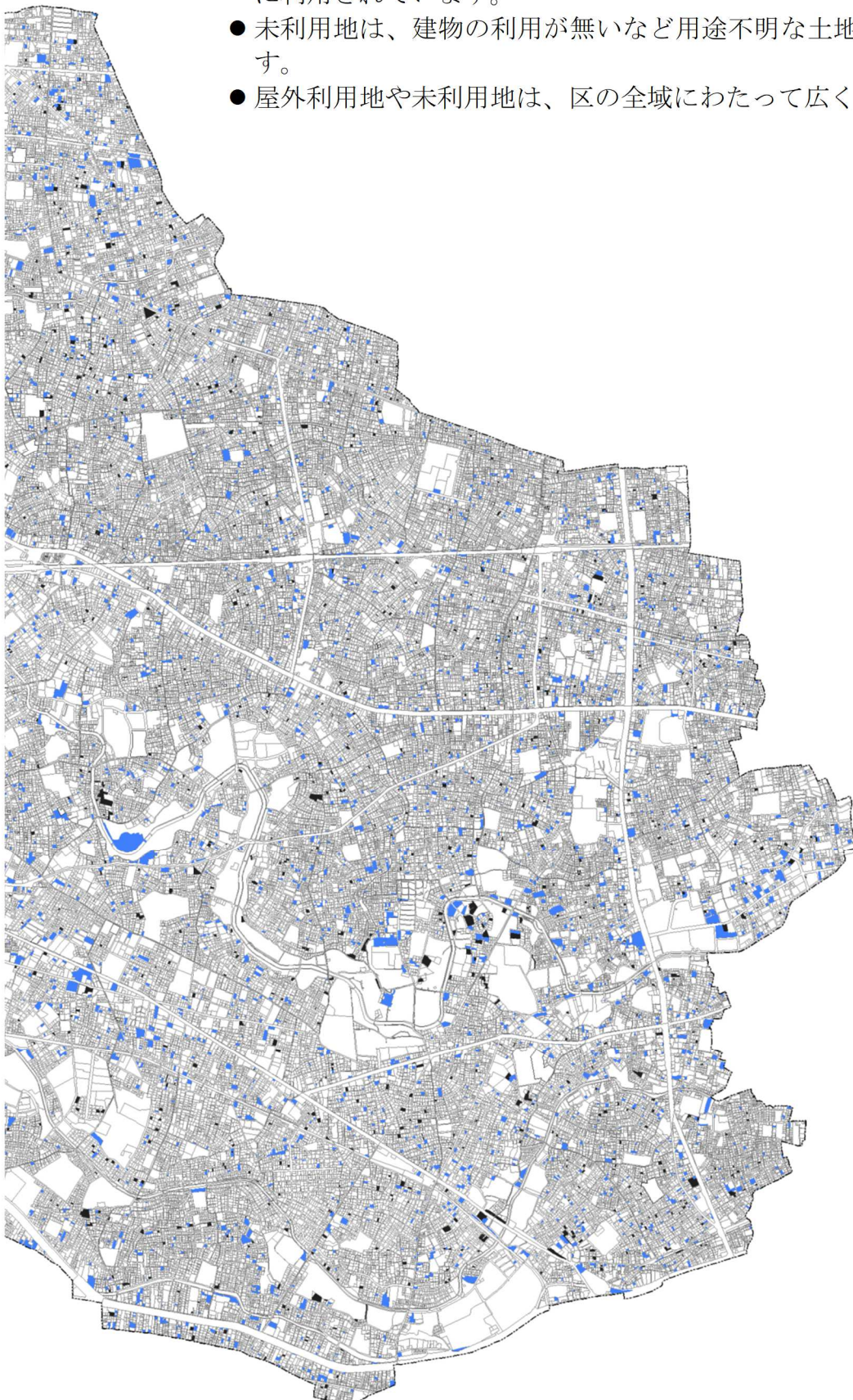
凡	例
	公園、運動場等
	田、畑、樹園地、採草放牧地
	生産緑地地区
	水面、河川、水路
	森林、原野
	区界

屋外利用地・未利用地現況図



《屋外利用地・未利用地の分布状況》

- 屋外利用地は、駐車場、建築中の敷地、モデルルーム展示場、資材置場等に利用されています。
- 未利用地は、建物の利用が無いなど用途不明な土地や、建物の跡地などです。
- 屋外利用地や未利用地は、区の全域にわたって広く分布しています。

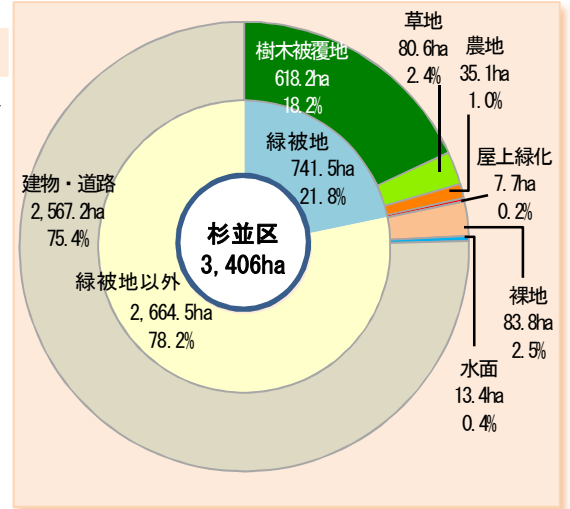


(2) 緑被率の状況

◆ 緑被率は区全域で 21.8%

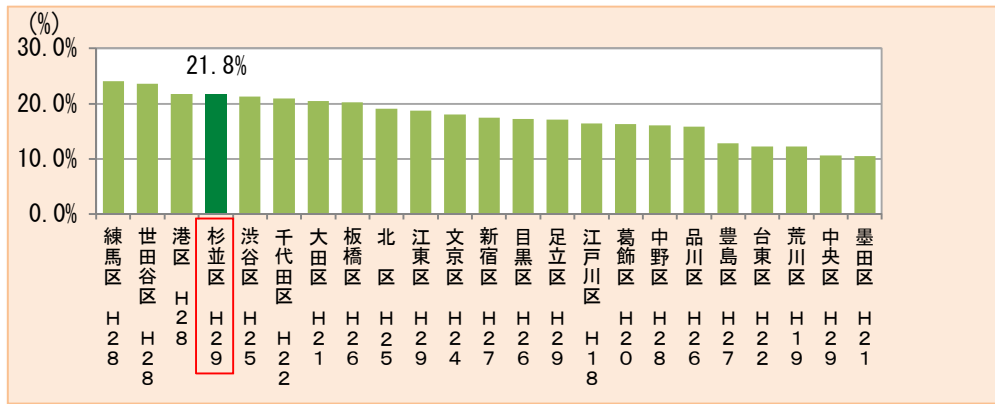
- 緑被率とは、樹木や草地など、みどりで被われた面積（緑被面積）が区域の面積に占める割合のことをいいます。緑被面積は741.5haとなっています。
- 樹木で覆われた面積（樹木被覆地）は、18.2%（618.2ha）となっており、区の緑被地の多くを占めています。
- 主に、善福寺川や神田川に沿って公園や緑地が整備され、緑被率が高い状況となっています。また、一団の農地は、区の北西部及び南西部に主に分布しています。

【緑被の状況】



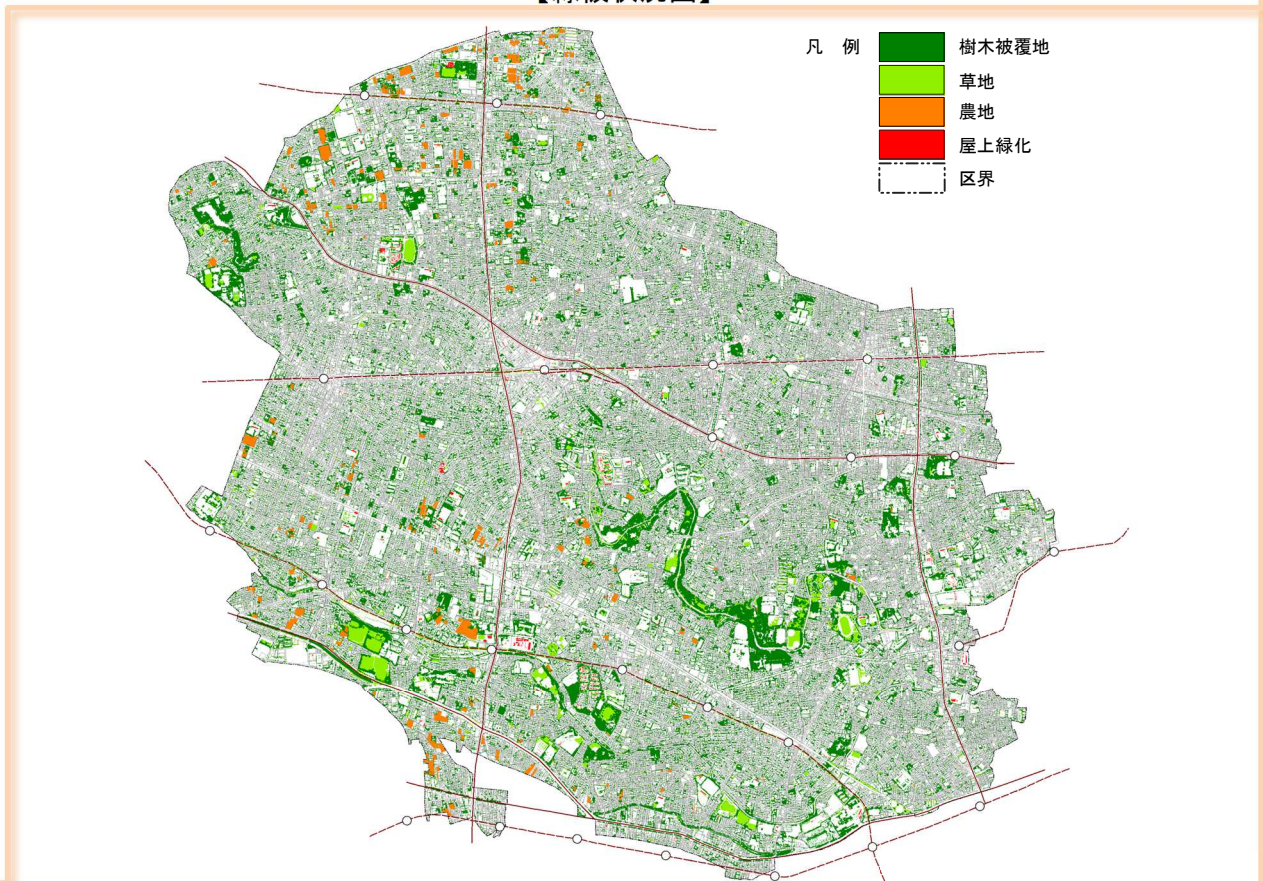
【緑被率の23区比較】

出典：平成 29 年度杉並区みどりの実態調査



出典：各区の報告書、計画書等
(調査年度、調査方法は区によって異なります。)

【緑被状況図】



出典：平成 29 年度杉並区みどりの実態調査